

野洲市議会主催 市民懇談会報告書

2023年3月3日

○テーマ 「文化3施設のあり方について」

○目的 老朽化、維持費の財政圧迫、高額な改修費用という課題がある中で、これから野洲市に必要な文化施設とはどのようなものか、幅広い市民の声をお聴きして、ご意見を委員会や議会での審議に生かすことを目的とする。

○実施日時 1回目：2月5日（日） 14：00～16：00 コミセンなかさと
・会場 2回目：2月7日（火） 19：30～21：30 野洲文化小劇場

○実施に向けての取り組み

1月23日（月） 市財政及び文化行政、3文化施設についての担当部局との勉強会
全議員が財政・文化施設のことをしっかり理解して質問にも答えられるように勉強会を行った。

1月31日（火） 模擬懇談会 ファシリテーション研修
グループワークの行い方・ファシリテーターの役割を学んだ。

○市民懇談会広報活動

- ・ 公共施設や商店などへのポスターの掲示依頼
- ・ 駅前での街頭宣伝・チラシ配布（野洲駅で4日間）チラシ：約600枚配布
- ・ 議員がそれぞれ SNS 等での発信
- ・ 市役所モニターへの掲載
- ・ 野洲市議会 HP、議会だより、市 LINE に掲載

○市民の参加人数 1回目：2月5日（日） 32名
2回目：2月7日（火） 25名

○懇談会の内容

開会挨拶 議長

議会改革推進特別委員長から趣旨説明

議員から野洲市の現状の説明（市の財政・行財政改革・文化行政・文化3施設の現状）

グループワーク

グループ発表

閉会挨拶 副議長

○グループワークで出された意見

●立地条件

- * 駅前の利便性を優先すべきだと思う。
- * 文化の灯を消さないために、野洲文化ホールは残すべきだと思う。
- * 旧中主町民の思いはさざなみホール、旧野洲町民は野洲文化ホールにあるだろうから、折り合いをつけるべきだと思う。
- * 文化の町を標榜しているなら、次世代育成のために野洲文化ホールは存続してほしい。
- * 大きい施設一つに集約すべき。駅前Aブロックに1500席のホールを作ってほしい。
- * さざなみホールを残すのであれば公共交通の充実をしっかりとしてほしい。

●施設の機能

- * 3施設統合の前提の話はしてほしくない。
- * 3施設、一つにするのは賛成する。
- * 若い世代が使える機能を充実させてほしい。
- * オンラインで発信できる機能をもたせたらいいと思う。
- * 文化ホールの音響は他市に比べても素晴らしいので残してほしい。
- * 防災面で駅前に公的施設があることが重要だと思う（1月の大雪の避難場所）。
- * 市主催のイベントが多いように思うので、もっと市民参画のイベントを企画してほしい。
- * イベントだけでなく、日常的に子供と一緒に出掛けられる場所にして欲しい。
- * 収支が3施設ともマイナスなので、コンサルタントを入れるなどして収益を上げていく方法を考えるべきだと思う。
- * さざなみは研修機能など、文化施設とは違う用途で使うとよいのではないか。
- * 今の3施設はそれぞれ違う利用目的によって使用されており、特徴ある施設なので残してほしい。
- * 3施設は必要ないと思う。集約して新しく建て替えるほうが良いと思う。
- * 野洲文化ホールの活用。稼働率が低いのでプロにも任せ、もっと活用すべきだと思う。
- * 災害時の避難場所としての機能は必要だと思う。（1月の大雪の対応）
- * 施設の活用を既存の枠から外して柔軟に使えるような発想が必要だと思う（小劇場はミニサッカーなど違った形での利用も考えられる）。
- * 若者向けのイベントが少ないので、デジタルを組み合わせる市外の人にも広く発信してほしい。交流人口を増やすといいと思う。
- * 駅前文化ホールは必要だが、一方さざなみホールも今まで使われてこられた施設だから、機能を変えて、例えば子供たちが集う場など、検討し直してはどうか。
- * 文化ホールに喫茶店など飲食施設を併設して、滞留してもらい集ってもらうことで、経済効果があり、駅前の賑わいも生まれるのではないか。

- *特色のある建物づくりが良いと思う。例えば昭和レトロなど他にはないような建物づくりをすることで集客も見込めるかもしれない。
- *文化ホールと小劇場（コミセンホール）を合わせたようなものを新設したらどうか。

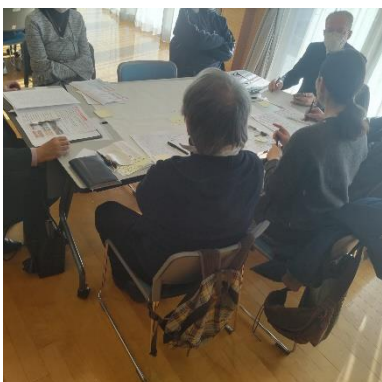
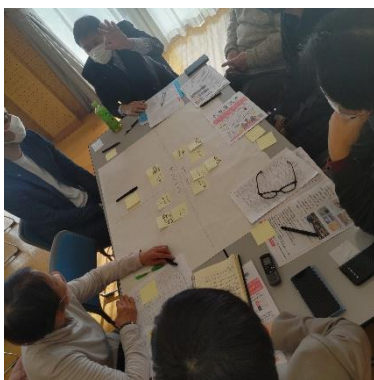
●まちづくり

- *野洲駅前のまちづくりのグランドデザインが見えないので議論が難しいと思う。
- *総合計画でどういう町をめざしているのか、よくわからない。
- *野洲駅前の街並みをどうするのか、市としての方針が見えない。
- *バスの本数が少ないので、もっと増やしてほしい。
- *市は駅前全体構想に文化施設を位置づけてほしい。
- *駅南口の再開発のグランドデザインがしっかり作られてこそ次へ進められる。グランドデザインをまず出してほしい。
- *駅前文化・スポーツゾーンとされていることをしっかり頭においてほしい。指定管理・第3セクターに任せる方法など、もっと頭を使ってほしい。
- *施設を作る場合、企業から支援をしてもらってはどうか。
- *人口増、子育て支援をしっかりと考えてほしい。
- *野洲市のブランドづくりをしてほしい。
- *野洲市にはいいところがいっぱいあるのに、見せ方がへただと思う。夢のある発信の仕方をしてほしい。
- *文化の大切さ。コロナで文化が軽く見られてきた。その表れが今回の市の集約化かと思う。市は閉める方向でしか考えられないのか、そうでない選択肢も考えてほしい。
- *文化施設というものは赤字であっても残してほしい。市民・子どもたちを育てるための投資であるという考え方に立ってほしい。
- *市民がクラウドファンディングを行い、文化施設を守れないだろうか。

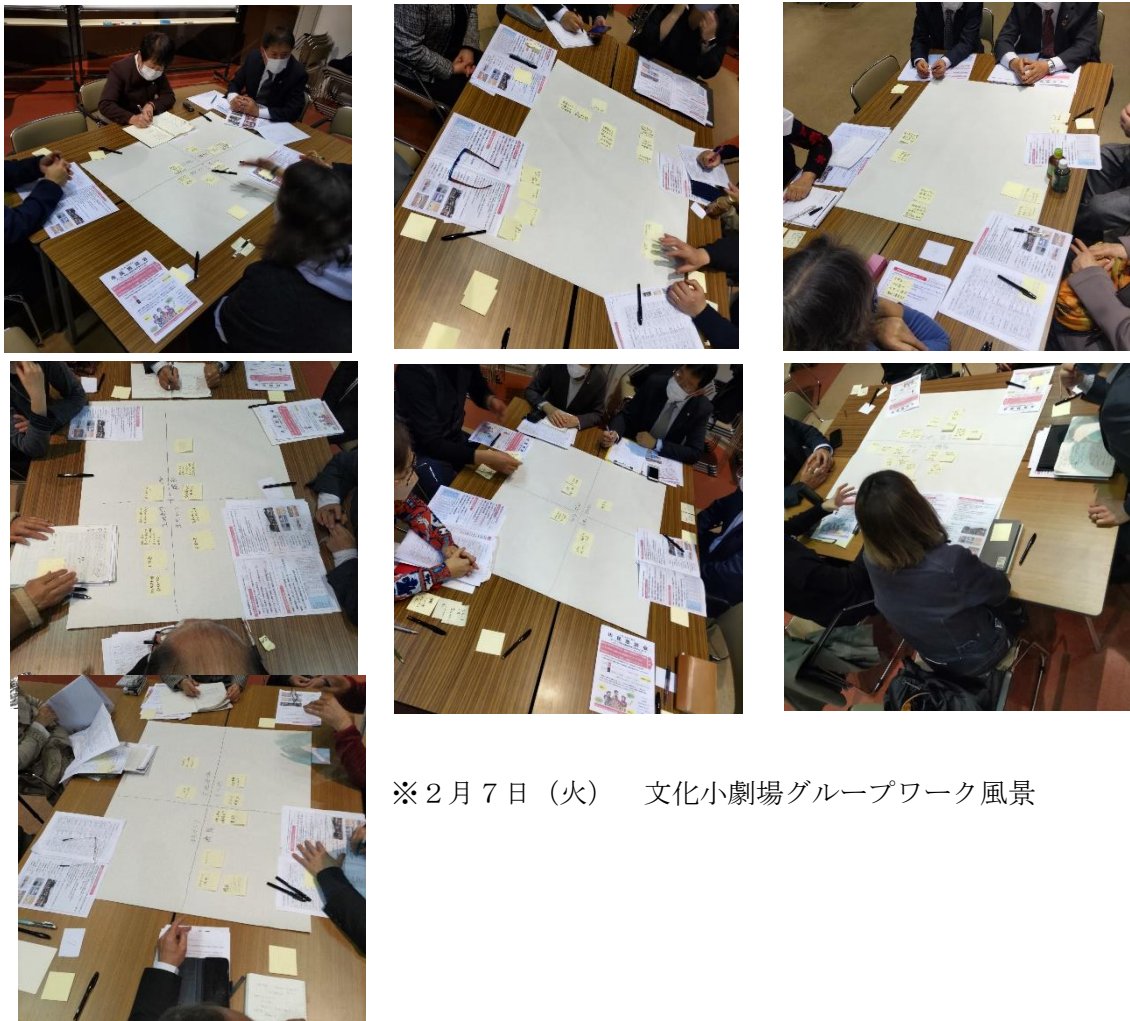
●その他

- *中学生や高校生などこれからを担う子供たちや若者の意見も取り入れるべきではないか。
- *今回の懇談会の呼びかけが小さい。もっと大々的に多くの意見を聞くべき。
- *ワークショップを開いて、意見を聞いて、次にどうするのか。何ができて、何ができていないのか、フィードバックしてほしい。
- *今回の議論、今のホールの現状、財政の悪さが資料だけではわからない。
- *設計時に市民の意見が反映されていないので、今後は聞いてほしい。
- *新しいものを作るばかりではなく、今あるものをもっと活用していくべきだと思う。
- *小さい時からの経験として文化の種をまき、文化の芽を育てていくことが必要だと思う。

- *収益を上げるために職員はもっと努力してほしい。
- *文化力、教育力に市は力を入れていないと感じるので、力を入れてほしい。
- *情報発信が甘いので、行政も SNS 等での発信に力を入れてほしい。
- *先行きを見通してしっかり議論したうえで、市民にわかるように情報提供してほしい。
- *もっと中学生、高校生など若い世代に話し合ってもらわないといけない。
- *中学校に議員が出向いて意見を聞く、駅の利用者に意見を聞くなどしてもいいのではないかな。
- *市民懇談会も 1 回で終わるのではなく続けてほしい。



※ 2月5日（日） コミセンなかさとグループワーク風景



※2月7日（火） 文化小劇場グループワーク風景

○市民懇談会を終えて

今回、野洲市議会として会派の枠を越え、議員全員参加のもとで市民懇談会を開催し、議員の方々、事務局の協力もあり無事に完遂することができた。「文化3施設のあり方について」をテーマに「人口5万人のまちの規模に対して、3つの文化施設は多すぎるのではないか。」また「文化施設の大規模改修が同じタイミングで到来してきている。」という課題について、これら文化施設の集約化・統合ありきでなく、文化施設の立地条件、施設の機能、まちづくり、その他文化振興策など、様々な観点から幅広く意見をお聴きすることができた。

結果として5日、7日の両日において、合計約60名の参加者で、広聴事業として7テーブルでのグループワークを行った。またグループワークの前に議員より野洲市の現状の説明を行ったことで、参加者の皆さんに一定の事実の共有ができたことから、意見が出やすくなったのではないかと考察する。

次に、いただいた意見の分析として、先ず文化振興については市民ニーズが強く、行政施策のひとつの分野として、体系付けた事業展開が今後も望まれ、継続した事業展開により、豊かさを実感し、豊かなまちづくりにつながるもので、その必要性を再認識した。

具体的には、市民の文化活動の発表の場が必要であり、コミセンホールの有効活用も含めて多角的な検討が必要である。

また、市民の方からは、市として行財政改革の取り組みを継続することは必要との認識のもとで、文化行政は高度な行政ニーズであり、施設維持・補修にも多額の経費が必要であることも市民の方々は理解を示されているものの、文化施設の集約化・統合を早期に進めるべきとの意見は少なかったと分析する。

さらに、駅前南口周辺整備構想の具現化の中で、市が描く整備のグランドデザインが見えてこないとの戸惑いの声や、整備の青写真のひとつに文化施設を位置付けるなどして考えていけないかなど、前向きな意見があった。

駅前整備については、今暫く期間を要することから、現施設の継続使用は止む無しとの見解があるが、文化施設は料金を徴収し、施設利用される方への施設提供サービス（貸し館事業）であることから、危険施設・危険箇所にあつては修繕し、サービス提供に際しては安全な施設であることが必須であり、次にユニバーサルデザイン等への対応等優先順位を付けるなどして、改修していくことも望ましいと考えられる。

また、両日とも子育て層の参加が少ないながらも、これまでなかったような意見がでていたと同時に、高齢の方からは私たちではなく、もっと若い世代の声を聴いてほしいといった意見もあった。総じて、市民の声をもっと聴いてしっかりとした計画をするべきという方向の意見であり、市においては専門家や市民を巻き込んだ諮問委員会の設置も視野に入れる必要があるのではないかと考える。

市民の皆様からは、またこうした懇談会を行ってほしいといった声を多くいただいており、さらに周知方法、広報の方法などを工夫して野洲市の課題について市民の皆様の声聴いていく必要があると考える。また、議員からも、議会が一つになってこのような広聴活動を行うことができよかったという声も上がっており、議会改革としても「議会」として動くことによる相乗効果を感じている。

しかしながら、聞くだけで終わっては市民の声に応えることはできない。

この結果を教育委員会及び、次年度の所管部に対して資料として提供することはもちろんではあるが、それだけでは議会としての動きにはならない。

今後、この課題を所管の委員会、または議会全体での課題としてとらえ、議論を深めていくことが間接民主制で市民から負託を受けている議会の役割であり、その経過をしっかりと市民の皆様へ情報公開していく必要があると考える。